



笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

子供のカ

「王さまのごめいれい」
といてバケツの中に手を入れる
「王さまって だれ」
「わたしの心のこと」

(愛と祈りで子どもは育つ：渡辺和子著)

富山県のある小学6年生の女の子が作った詩が紹介されていました。また、子供には、寒い冬の日、冷たい水の中に手を入れるのは「嫌だなあ」と思う気持ちの他に、正しいことを行おうという内なる声に従うことができる力があることを大人は知っておくことが大切であるということも書かれていました。

先日の掃除の時間のこと。物をどかして、その奥を箒で一生懸命掃いている子がいました。物をどかして掃くという行為は、ちょっと面倒なことだろうと思います。でも、その面倒なことを敢えて行い、一生懸命に掃除している姿が、輝いて見えました。

そよかぜ級では、黒板を一人で黙々と掃除している3年生がいました。時々、離れた所から黒板を見て、出来栄を確認し、汚れている箇所を見つけると、その部分をきれいに磨き上げていました。表情は、真剣そのもの。見直しながら環境をよりよいものに整えていく姿、素晴らしいと思いました。

また、手洗い場では、使った雑巾を水洗いし、さらにバケツの中も何度も洗う等、片付けにも一生懸命に取り組む子供たちがいました。2人で片付けしていましたが、友達の雑巾の絞り方が十分でないことに気づき、「まだ水が出るよ。」と優しく伝えて、再度絞っ

ている子。自分が使った雑巾ではないけれど、友達のことを気持ちよくフォローする姿がとても素敵でした。

以前に読んだ本と掃除中に見られた子供たちの様子が重なり、よりよく生きようとする子供のカを尊重していきたいと思いましたし、子供たちの素晴らしい姿を見出して、言葉に出して伝えていきたいと改めて思いました。

交通安全教室

6月10日(木)、4年生が自転車乗り方教室の学習を行いました。体験的に学ぶことができ、子供たちのよい学びとなりました。自転車は左側通行であること、「止まれ」の標識では、止まることの他に、左右の確認をすること、踏切では後方から車が来ないことを確認して自転車を降り、左右確認と音をよく聴き、電車が来ないことを確認してから自転車を引いて渡ること、死角になっている箇所が道路にはあり、物陰から飛び出すことは危険であり絶対にしないこと等、多くのことを学んでいました。

子供たちの学びを確かなものにして、安全意識を高めていくためには、私たち大人が交通ルールを守ることや安全な過ごし方について何度も伝えることが必要であると考えます。御家庭や地域の中でも子供たちへの声かけをお願いできればと思います。

学習に向け、自転車を学校に持ってきてくださった保護者の皆様、また、自転車乗り方教室当日、使用のたびに消毒をしてくださった保護者の皆様のお力により今回の学びに繋がりました。感謝申し上げます。